

ちば中学生県議会の今後のあり方検討ワーキンググループ（第2回） 議事要旨

1 日 時 令和6年8月20日（火）午前10時30分～午前11時33分

2 場 所 議会棟5階 議会運営委員会室

3 出席者 構成員 小路正和議員、伊豆倉雄太議員、田中幸太郎議員、
鈴木均議員、仲村秀明議員、石川りょう議員、浅野ふみ子議員
関係課 議会事務局政務調査課 茂木純子議会広報班長
教育庁学習指導課 大木圭教育課程指導室長、菅根彰宏指導主事
事務局 島田昌信議事課長、飯嶋茂人議事班長、檜垣沙希主事
欠席者 川村博章議員、安藤じゅん子議員

4 議事概要

（1）ちば中学生県議会の過去の開催結果について

事務局からちば中学生県議会の過去の開催結果について説明。

- ・過去の質問項目は、地域格差の是正や子育て支援など中学生にとっては大きな質問になっている。
- ・開催結果のアンケートでは、「厳粛な場で自己を表現する素晴らしい機会である」「とてもよい経験ができた」などの意見がある一方、「答弁をもう少し中学生向けに噛み砕いて言ってもらえるとよかった」、「質問議員でない人も発言や挙手などで議論に参加できるようにしてほしい」などの改善を求める意見もあった。

（2）他都道府県の主権者教育の取組状況について

事務局から他都道府県の主権者教育の取組状況について説明。

- ・出前講座は事務局職員の出前講座を含め、15議会が実施し、高校生を対象としているところが共通している。参加人数は10数名から数百名となっている。
- ・模擬議会は執行部主催の模擬議会を含め、19議会が実施。
- ・体験会は、京都府と徳島県において、議員が議会の仕組みなどを紹介し、意見交換を行っている。
- ・それ以外の取組では、広報紙の発行やSNSによる情報発信、議長・副議長との懇談会、大学生による一般質問の傍聴と議員との意見交換など。

（3）教育庁における主権者教育の取組状況について

教育庁学習指導課から教育庁における主権者教育の取組状況について説明。

- ・主権者教育は、学校の授業で、副読本等を活用して政治参加への重要性を指導するとともに、総合的な探究の時間等で、他者と議論しながら合意形成を図り、地域の課題などを主体的に解決しようとする態度を育成している。
- ・選挙管理委員会と連携した出前授業や模擬選挙といった体験的な学びの優良事例を紹介し、各学校での導入を促すなど、主権者教育の一層の推進に努めている。

- ・ 90. 7%の高校が公職選挙法や選挙の具体的な仕組みに関する指導を実施しており、36.4%の高校が模擬選挙・模擬請願・模擬集会といった実践的な学習活動を実施している。

(4) 意見交換について

- ・ 主権者教育の取組について、学校として実施している部分もあると思うので、やはり議会としてどのように子供たちと向き合っていくかが大事だと思う。
- ・ 中学生県議会について学校は知っているが、生徒個々になると知らなかった人の方が圧倒的に多いため、どのように知らなかった人にアプローチするかが課題だと思う。
- ・ 学校や主催者が満足している部分よりも、参加した子供たちがどう感じたかに主眼を置く必要がある。その中で主体的に取り組んでる人たちは軒並み良い意見だと思うが、そうでない人たちに対してどのように取り組んでいくのか。議会がどのようなことを行っているかなどを、まず子供たちに知ってもらえる取組ができればよいと思う。
- ・ 過去のアンケートを活かした形で、バージョンアップをさせることが必要ではないか。そのため、今の形に縛られずに、子供たちにとって興味関心がもっと深まり、広がるような取組を模索できれば良いと思う。
- ・ 自分たちが出した意見が採用され、それに対する答弁があり、その結果、見える形で変わったことがわかれば、まさに主権者教育だと思う。各学校で中学生県議会を知らない子供たちが多数いるのであれば、テーマを絞り各学校が参加する前から学校内で議論し、まとめたものを代表者が発言するようなことはできないのかと思う。
- ・ 主権者教育は、自分事と捉え行動していく、自分が主体者になることを教えていくことだと思う。今の模擬議会はそこに参加して合意形成を図るという主権者教育の一部分だと思うが、その意義がわからず、ただ参加しただけでは、例えば小学生の国会見学と同じような感じ。主権者教育に資するならば出前講座や模擬議会にこだわらずに検討しても良いと思う。
- ・ 教員や子供たちの感想をみると、とても良い経験だったとある。そのため、大人の都合で質問作成したという思いもあるが、今の形もすごい名誉なことで、それはそれで非常に良い経験だったと思う。
- ・ 目的と手段は非常に大事だと思う。目的は議長会決議にもあるように、議会とは何かを住民にしっかり理解いただき、女性や若者など多様な人材の議会への参画を一層進めていくことであり、それを実現するために行うと思っている。模擬議会も非常に価値はあり、子供たちにとって貴重な経験だと思うが、模擬議会は子供の手を離れる質問の内容になってしまう危惧がある。会派内で話し合ったが、アンケート結果にあるように、役になった人しか発言できず、その他の子供たちに役が回ってこないことや、現場の負担が非常に重いことなどを考えた際に、今回の事務局案の中では、議会の説明会と見学会と意見交換会を、県内の希望者に実施することが一番効果もあり負担も少なく、そして議員が一番関われるのではないかと考えている。

- ・参加した生徒が自分の意見を言えるとなると、委員会形式がいいのではないかと。各委員会で委員長等を決めて、最後に委員会の意見を委員長が議場で報告することに意義がある。テーマは委員会ごとに決めて行うことがよいと思う。
- ・関心を広げるには、来てもらうのではなく、行く気持ちがやはり大事だと思う。意見交換会や議会の説明会等も良いと思うが、地域ごとに開催されるものに議員が行くことになれば、議員や議会をもっと知って欲しいとの思いを可視化することになると思う。
- ・出前講座は非常に価値のあることと認識しているが、今年や来年度に実施できる可能性があるとするれば、お呼びする形の見学会や意見交換会だと思う。各学校では、年間指導計画が決まっており、実施する1年以上前から各学校と折衝しなければならないため、出前講座は準備と期間がかかる。そのため、将来的、中長期的には出前講座は意義があると思うが、短期的に実施できる可能性から見た場合、見学会や意見交換会ではないか。
- ・出前講座の場合、地元の個別的な質問をされた場合、地元の議員以外は答えることは難しいのではないかと。
- ・出前講座で取り上げるテーマを考えてから行えば、出前講座でも良いのではないかと。行政課題ではなく、地方自治制度や民主主義等にすれば誰でもできる。行政課題では地元議員でないと難しいと思う。

(質疑応答)

- ・主権者教育はカリキュラムの中に含まれているのか。また、様々な取組を行っているとのことだが、それは学校ごとの自主的な取組に委ねられているのか。
→主権者教育については、今回の学習指導要領が改訂されたことに伴い、教えるべき内容とされており、文部科学省が主権者として求められる力といった小中学校向けの指導資料なども配付している。しかし、模擬選挙等の形まで踏み込むかは各学校の実情に応じて行うことになると思う。
- ・例えば出前講座を行うにあたり、その時間を授業の時間内で設けてもらうことは問題ないのか。
→年間指導計画が元々定めてあり、既に主権者教育をどのように指導するか決まっているところに、例えば2時間のところを6時間にすると、他の教育内容にも影響するだろうが、校長の判断により対応できていることになっているため、多少の弾力的な運用は可能だと思う。
- ・様々なやり方はあると思うが、例えば投票率アップや学生たちの参画意識など、目指すゴールは何か。
→今まで中学生県議会を実施しており、今後どうするかが1つの大きなテーマであり、議長会決議にある主権者教育を一層推進し、議会自らが主体的に行う主権者教育の取組が大きな目標になるのではないかと。
- ・模擬議会は主権者教育の1つと捉えているのか。また、中学生より高校生の方が良いという考えはあるか。

→新聞などで市町村の模擬議会の報道があるが、市議会への提言等で発言したことが実現すると、自分たちの声が反映された実感を得られると思う。だが、中学生が県議会で提案するということは難しいのではないか。

- ・教育庁としては主権者教育の中で、県での模擬議会をどう捉えているのか。

→活動としては教育的価値が高いと感じるが、学校の先生の負担を考えると厳しい。

〇〇教育は100種類以上あると言われるぐらいに、学校には様々な種類の教育が求められ、カリキュラムマネジメントで何とか実現できるように進めており、主権者教育はその中の1つである。主権者教育もとても大切なことであるが、限られた授業時間数の中で価値が高いからそのままやるべきというと、それぞれが価値の高い教育のため、授業時間数をどれぐらいとれるかが課題となる。

- ・高校だと公民の枠の中で、民主主義の成り立ちなどを教えているのか。

→公民科の中の公共という科目で、高校生全員必修で教えている。

- ・教育庁としては模擬議会に子供が参加することにより、どのような教育効果があると思うか。

→主権者教育の一環として、テレビを通じて見ていた場所に、自分が実際に出向き、参画して学ぶことは、教室で学ぶよりも、十分な教育的価値はあると感じている。

- ・自分たちが感じていることが具体的になるということであれば、地元の市町村の方が、自分たちの生活の中で課題として考えることになるため、身に染みてくると思うが、県の模擬議会では少し幅広になってしまい、実感がわいてきているか疑問がある。

→質問の精度を上げていこうとすると自分の言葉ではなく借り物の言葉になってしまうことはあると思う。小中学生の管轄は、県の教育委員会ではなく、各教育事務所から市町村の教育委員会を通じて、各学校という形のため、様々な指導が入ると、1人の先生が授業をやっていく以上に価値は高いものになると思うが、だんだん子供の思いから離れていくという懸念もある。

(5) その他

- ・次回は9月11日以降に実施予定。